



福聚

題字 總持寺貫首 石附周行猥下

発行・編集

曹洞宗 観音寺

〒956-0862 新潟市秋葉区新町2-5-51

電話0250-22-1384 FAX0250-22-2099

住職携帯090-3093-4112

<https://sotoshu-kannonji.com/>



観音寺 秋葉区

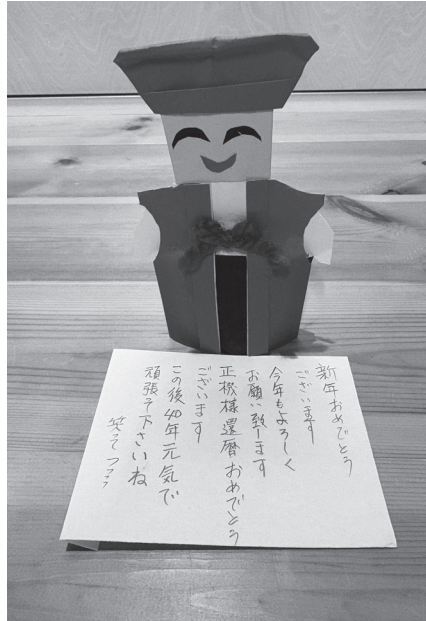
検索



還暦に思うこと

六十にして耳順う

観音寺住職 阿部正機



「還暦祝い」にいただいた手作り人形

私も今年三月に還暦を迎えました。昨年十二月に小・中学校の同窓会を開き「還暦を祝う会」を催しました。観音寺で還暦祈禱法要をお勤めし、場所を変えて宴席を楽しみました。会話の中で、「お前歳取ったなく、幾つになつた」「お前と一緒にだよ、同窓生だねっか」と互いに歳を重ねましたが、楽しいひと時でした。また、この年齢になると健康と病気の話にもなり、改めて健康と友人の大切さを確認しました。私自身の事を言うとも、還暦を迎えた途端に五十肩（四十歳であつても、六十歳であつても五十肩と言うそうです）となり、

着物の帯を結ぶために手を後ろに回す度に「痛つて」と格闘しており、「まだまだ若いぞ」と自分に言い聞かせていましたが、そつと現実が年齢を教えてくれました。

六十年前の丙午（ひのえうま）の干支に生まれたのですが、江戸期以降に日本では、丙午の年に生まれた人は気性が荒く、災いを呼ぶなど根も葉もない言説が広まり、差別までもが生まれたのでした。「丙午は気性が荒い」という因果関係などありません。因果は、私の言葉、行動、心の在り方すべてが静かに巡り、結果として現れるのです。因果は裁かれるものではなく、自分が何を蒔いてきたのかをただ静かに映し出すだけです。あらためて根拠のない迷信に振り回されない智慧を学び、他に寄り添える慈悲の実践を紡いでいきたいと思えます。

中国孔子の「論語」にある六十歳を示す言葉に、「六十にして耳順（したが）う」の教えがあります。その意味は六十歳になると他人の意見や言葉に対して素直に耳を傾けることが出来るようになる、ということです。確かに他人の言葉を素直に受け入れることは難しいのかも知れません。またこの言葉の意味するものとしては、「単に聞くという行為だけでなく、「自分は間違っていない」という頑なな態度を人は取りがちであるということを気付かせていただく言葉なのではないでしょうか。「自分

は間違っているかも」との考えが欠落している、素直に他人の言葉を聞くことが出来ません。自分は正しいという性善説を自ら一度手放すことも大切なんだよ、と教えてくれます。今すぐにでも身につけたいものです。

山登りは、山に登るだけと言うのではなく、登山から下山するまでを言い、六十歳になり登山に例えるなら下山に入っています。仏教詩人の榎本栄一さんは「下り坂には下り坂の風光がある」と言われ、下りを決してマイナスに捉えていないのです。長年脇目も振らずに懸命に登ってきた経験値を携えて、今まで見たことのない下りならではの素敵で大切な景色を見させていただき、登りの時には味わえなかった喜びを享受し、下り坂の風光を楽しみながらしっかりと残りの歩みを進めることの大切さを教えてくれているのです。

還暦を迎えたこれからの時間は、ここまでお支えいただいた全ての方に感謝をお返ししつつ、もう少し頑張りたいと思いますので、今しばらくお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

合掌



還暦祈願法要



還暦同窓会



昨年八月十日「千日詣り・本尊ご開帳かんのん祭り」を開催いたしました。当日はあいにくの雨模様ではありましたが、駐車場での飲食ブースや、道場でのプレイブースなど賑わいがあり、また本堂でのご祈禱法要、盆踊り、お菓子まきなど楽しいお寺でのひと時をお過ごしいただきました。四十年前頃までは、八月十日の観音寺千日詣り法要の前日夕刻に前夜祭としてお祭りを行っていました。それから諸事情により、十日のみの千日詣り法要だけを行ってきました。しかし、お寺という豊かな観光資源と、お寺ならではの自給率を高めていくことを考えた

昨年の案内

かんのん祭り
(盆おどり)

時、「仏法が息づくお寺、地域に根差したお寺」がコンセプトとなり、「盆おどり」がコミュニティのさらなる和を広げ、お寺とのご縁を深めるツールとなることを確信し、企画を始めました。盆おどりの由来を訪ねていくと、お釈迦さまの時代、弟子の目連尊者が神通力を働かせあの世を窺うと、成仏していない親が居た。そこでお釈迦さまにご相談すると、七月十五日になるとお坊さんが山から下りてくる、そこで大勢のお坊さんと供養を勤めなさい、さすれば親の追善の供養が成就します、とお教えいただきました。そこでお教えの通り勤めると親は成仏し、目連尊者は喜びのあまり夜通し踊られたとのこと、これが盆おどりのルーツと言われております。これは、お盆の起源でもあり、お盆に先祖の霊を迎え、供養する考え方から「霊を慰めるための踊り」として生まれたとも考えられます。

日本では室町時代から始まったものであり、およそ五百年の歴史を持つ厳かな行事の一つです。盆おどりの形は多少変わっても、その根底にはご先祖

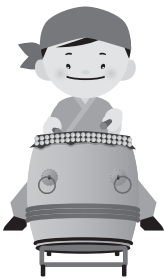
様を敬う心が流れているのです。

お観音さまの大縁日である八月十日は、千日お参りした功德が授かる千日詣りであり、観音寺のご本尊さまであるお観音さまの、年に一度のご開帳でもあります。

今年の「かんのん祭り（盆おどり）」は前夜祭として、九日（日）からご本尊さまのご開帳をし開帳をいたします（十日の法要も通常通り勤めます）。

お寺は、地域に根差し、地域に支えられ、歴史と文化を育む観光資源であるゆえに、この時この場所から心の安寧と喜びを紡ぎ、地域の親睦と繁栄に繋がることを切に願って居るところでございます。

今後とも、及ばずながらお寺山内一同、精一杯活動してまいりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます、また当日のご参詣を心よりお待ちしております。上げております。



お囃子の奉納



雨のため本堂にて盆おどり

寺カフェ春まつり 箏コンサート

晴アンサンブル

三 富 恵 子

梅の花が咲きほころび始めた三月八日(日)観音寺様の寺カフェ春まつりにて、私たち晴アンサンブルは箏の演奏をさせていただきますました。晴アンサンブルは、メンバー四名で地域の学校や施設などで演奏活動しております。

当日は穏やかな春カフェ日和で、参道にはお地藏様があたたくく出迎えてくれました。

観音寺様のご厚意により、本堂の中央に緋毛氈の準備をしていただいた他、手書きのプログラムを作成していただきました。十三絃箏二面と十七絃箏一面の三人で六曲を演奏しました。

演奏曲目は、八橋檢校の代表的な楽曲『六段の調べ』、皆さんが耳馴染みのある『お江戸日本橋 さくらメドレー』に加え、『大きな古時計』『君をのせて』『涙そうそう』等のポップス曲も箏アレンジでおとどけしました。アンコールもいただきました皆さんの手拍子と共に『明日があるさ』を楽しく演奏させていただきました。

演奏終了後には、奥様はじめスタッフの皆様が作られた、寺カフェの手作りケーキと珈琲を美味しくいただきました。何事も続けていくことは難しいですが、私たちはお箏をラ

イフワークとして、これからも続けていきたいと思っております。

この度は、寺カフェイベントで演奏させていただきました、とても感謝しております。

ありがとうございます。



筆者中央



大勢の観衆



本堂にて演奏



三富さんと私、互いの息子が小学校時同じ野球チームに所属をしていたご縁から、今も寺族圭子とお付き合いをいただいております。この度寺茶坊(カフェ)の際、本堂にて箏の美しい調べを奏でいただき有難うございました。箏の音は雑念を鎮め心を調える響きがあり、坐禅の心境に通じるといわれます。ご執筆有難うございました。

住職合掌

◆ 令和八年行事案内 ◆

一月一日～三日

三朝祈禱

【午前六時 読経・祈禱】

一月一日～二日

初詣・年始受け(檀信徒から寺へ)

一月三日～十日

年始廻り(寺から檀信徒へ)

二月三日

節分会(祈禱)

三月十五日

【午後七時 ご祈禱・福豆配布】

三月十七日～二十三日

涅槃会(だんごまき)・血脈授与式

五月八日

【午前十時半 法要・涅槃だんご配布】

春彼岸(棚経希望の方はお電話下さい)

花まつり

春彼岸(棚経希望の方はお電話下さい)

六月十九日

花まつり

八月三日

【午前十一時 法要】

八月九日

万灯(塔婆)供養

盆盆

盆仏【午前十時半 法要】

盆盆

かんのん祭り(盆おどり)

盆盆

【夕刻】

盆盆

千日詣り

盆盆

【午前十時半 法要】

盆盆

盆棚経(旧新潟市方面)

盆盆

盆棚経(市外・荻川地区)

盆盆

盆墓参・盆受け



八月十四日～十六日 盆棚経(秋葉区全域)

九月十三日 開山忌

九月二十日～二十六日 秋彼岸(棚経希望の方はお電話下さい)

十月三日 施無畏会

十二月八日 成道会・常齋米供養

【午前十一時 法要】

十二月三十一日 除夜の鐘・二年参り

【午後十一時四十五分撞き初め】

※定例の各法要行事にどうぞお参りください。

※行事の時間・内容等は、当日一週間前よりお寺の

掲示板にご案内いたします。

★梅花講練習日★

毎月第一か第二月曜日 午前十時より

初心の方でもどなたでもお気軽にどうぞ。

★坐禅会★

毎月第三日曜日 午前六時より

「坐禅(法話)・茶話会」
どなたでもお気軽にどうぞ。

★同行二人会(観音巡拝旅の会)★

昭和四十六年より毎年観音巡拝の旅を行なっています。

本年は五月十二日～十三日(一泊二日)で「鶴岡善宝寺と

玉川寺参拝の旅」を実施いたしました。

来年はまだ未定ですが、参拝の旅を企画いたします。秋
頃にはチラシを本堂に置きますので、どなたでも気軽に
ご参加ください。



令和八年『お盆の棚経』

住職・副住職・役僧

八月十一日 旧新潟市

十二日 旧新潟市、亀田、五泉、荻川地区

十三日 墓参・盆受け

住職 八月十四日 午前…大鹿
午後…山谷

十五日 午前…本町4・3・2・1
午後…善道

十六日 午前…程島、中村、東島、朝日、古津、他

副住職 八月十四日 午前…草水、滝谷、下興野
午後…秋葉、中沢、金沢町4

十五日 午前…古田、新栄町、吉岡町、田家
午後…新町2、川口

役僧 八月十四日 午前…新金沢町、東町
午後…美幸町、日宝町

十五日 午前…柄目木、飯柳
午後…北上、さつき野

役僧 八月十四日 午後…金沢町3・2・1
十五日 午後…新町1・3

*あくまでも現在の予定です。

多少の変更も有りますので、八月十三日の墓参の時に最終調整した日程表を、本堂に大きく掲示しますのでご確認ください。

*各地域の担当和尚さんを毎年ローテーションいたします。時間帯はだいたいの目安です。

前後することもありますので、ご了承ください。

『磨磚道場』イベント案内について

磨磚道場の性格をもつ「磨磚道場」ゆえに、ともに学び、ともに自らを磨き、ともに自らの尊さに気付く、そのようなイベントを皆様にご案内してまいります。

イベント案内は当面はお寺の掲示板（なるべく早めに掲示する）とチラシ案内（お寺に置く）となります。

【現在までの企画イベント】

☆寺子屋かんのん塾（小・中学生対象）……………通 年

☆定例「坐禅会」……………毎月第三日曜日 午前六時

☆定例「梅花（ご詠歌）会」……………毎月いずれかの月曜日 午前十時

☆寺カフェ……………三・四・五・六・九・十・十一・十二月、概ね午後開催（住職法話などあり）

会費 五百円

☆寺ヨガ……………三・四・五・六・九・十・十一・十二月、概ね午後開催

会費 五百円

☆様々コンサートなど

※どなた様もお気軽にお問い合わせくださいませ、ご参加お待ち申し上げます。

お寺よりの伝言板

「磨磚(ません)道場使用について」

磨磚(ません)道場は様々な使い方ができる檀信徒皆様の空間です。何かご希望等がありましたら気軽ににご相談下さい。

「墓地の美化にご協力を！」

燃えないゴミはなるべく各自でお持ち帰りいただきます様お願いいたします。
また燃えるゴミは、ゴミボックスをお使い下さい。
環境保全、墓地の美化にご協力をお願いいたします。

「自然災害復興支援・北朝鮮による拉致解決へ向けた支援を呼びかけてあります。」

本堂に支援箱を置いておりますので、寄り添いの心をもって、出来る活動をみんなで行っていきましょう。

住職の携帯電話の番号

090-3093-4112



*緊急の時など右の携帯電話の番号におかけ下さい。

「観音寺ご朱印」

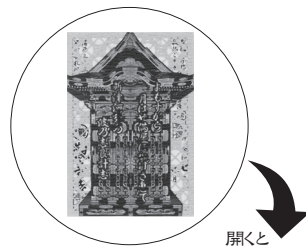
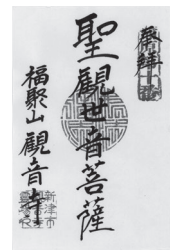
(通常) ご朱印……………五百円

・直にご朱印帳に書し、印を押すもの

・先に書し、印を押した紙を、ご朱印帳に貼るもの

(特別) 切り絵ご朱印…千円

・秘仏ご本尊のお厨子の扉を開き、ご本尊聖観世音菩薩様のご尊顔を拝み、ご縁を結んでいただくイメージです。
・ご朱印帳にお貼りください



開くと



おしやう 和笑のひとり言

ご朱印は、昔から経文を書き写し、それをお寺に納めることにより、その証としてお寺の宝印を押していたものだものです。現在はご参拝なされることにご朱印を賜ります。お経をお唱えなさる方もおります。そこで一点ご注意であります。スタンプラリーではありませんので、ご本尊さまとご縁をいただく心を大切にしてください。

観音寺ではこの度、通常のご朱印に加え、切り絵の特別ご朱印を作成いたしました。これは、観音寺ご本尊聖観世音菩薩さまが秘仏であること、ご尊像が聖徳太子御作であることに重きを置いたものです。通常のご朱印とご縁をお結びいただければ幸いです。

ご朱印はご本尊さまとご縁を結ばれた尊い証ですので、大切に ご奉持され、毎日を正しく営む支えとしてください。

そして今生を旅立つ時には、棺に納めていただくか、家族に残すこと、ご朱印を大切に保管し、ご縁を重ねていただく気付きとしていただくか、どちらかの扱いをされると良いです。

ご朱印を通して真の喜び多き人生となりますように…。

合掌